

小水力発電による電力の農業用施設への活用



用水路に設置された小水力発電設備



電気自動車による農業用水の見回り

<概要>

- 事業実施主体：立梅用水^{たちばい}土地改良区^{たきぐん たきちょう}
(三重県多気郡多気町)
- 発電設備：小水力発電
発電出力 2.6kW (1.0kW+1.6kW)
発電電力量 14,000kWh/年
- 建設費：900万円(改良2機分)
- 運転開始時期：平成24年8月

<特徴>

- 平成24年から、水士里^{みどり}ネット立梅用水(土地改良区)を中心とした産・官・学・民の協働プロジェクトにより、当初は、小さな落差(50cm)で、大規模な土木工事を必要としない小型で高効率、低コストの小水力発電の実証試験を実施。その後、異なる水の入口幅を調整した発電機を2機作成し、発電出力が増加している。
- 発電によって得られた電力については、
 - ① 地元特産品を活用した米粉などの農産物加工施設や、獣害対策設備、農業用ポンプ、ハウスの加温施設等に供給、
 - ② さらに、発電出力が増加したことにより電気自動車へ充電し、農業用水の維持管理や高齢者の見回りにも活用。地域の水資源を利用した小水力発電により、電力の地産地消の取組を進めている。

※ 農山漁村再生可能エネルギー供給モデル早期確立事業 (H24) において支援